

令和七年度 一般B（二月） 入学試験問題 《国語》

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

先日、「忠臣蔵」^{*1}をテーマにしたテレビ番組にコメンテーターとして出席した。「忠臣蔵」は戦後すぐ^{*2}にマッカーサーから「仇討ちの物語だからよくない」と否定されたケイイ^アがある。その「忠臣蔵」を、これから世界に持ち出すためにどうすればよいか、と司会者がわたしたちに問いかけた。わたしは『忠臣蔵』は情だ。あれは人情劇だから、その情というものを世界に広げていかなければ」という趣旨の発言をしたところ、同じコメンテーターの一人から「中西さん、これからはグローバルイズムの世界ですよ。その中で情なんて言っても通じませんよ」と反論された。

番組では時間の関係上、そのまま議論を続けることは出来なかったが、そのように「グローバルイズムとは日本を捨ててアメリカ的になること」という風潮^Aが広まっているのは気がかりだ。わたしはあくまでも、それぞれの国がそれぞれの文化を持ち寄る多様性が大切だと考えている。へ i へ日本は日本として、世界に文化を発信していかなければならない。

* 中 略 *

大切なのは自国の文化の特長を知り、日本人は日本人の顔のまま世界に発信していく。決して日本人がアメリカ人の顔をする^①ことではなからう。では、日本が世界に発信できる「文化力」とはどのようなものがあるのか。わたしはそれを三点に集約したい。

一つ目は「尊敬する力」である。

これは「上と下」という関係に発する。日本は他国の文化を受容する能力が高いといわれる。幕末に開国してから、日本は外国の植民地となることなく明治維新を迎え、近代化を進めた。それは日本が「尊敬する力」をもっていたからである。日本は常に、中国という巨大な文化の周辺にいた。だが自らを相手よりも下に置き、流れてくる価値を受け止めてきた。受け止めるということは、自らを成長させる能力があるということなのだ。「尊敬する力」とは他者を受け入れ、学び、自らが成長していく能力である。だから日本語には敬語が多い。常に相手より自分を下に置いてきた、そのシヨウコといえよう。二つ目に「調和する力」である。

これは「他者と自己」の関係についての力である。いくら他国から文化を受け入れてきたからといっても、日本は自国固有の文化も守り続けてきた。日本固有の文化と外来の文化との調和を図りながら取り入れてきたのだ。「X」との言葉があるが、調和してハーモニーを奏でていても、決して同一化するわけではない。

よく日本人は個性がない、自分を持たないなどと批判されるが、じつは日本人は「わたし」を使い分けているのだ。『万葉集』では、かなり頻繁に「われ」という言葉が出てくる。特に恋心の発露^{*3}など、自分を出すべきところでははっきり主張している。へ ii へ社会生活においては、調和を重んじて自分を控えぬに出す。日本語の文章でも主語のない表現が多いのはこのためだ。それは決して「わたし」がないのではなく、社会への成熟度の高さの表れと考えるべきではなからうか。

三つ目は「象徴する力」である。

これは「多と一」の関係についての力だが、最もわかりやすい例は日本の伝統芸能である「能」である。能には大がかりな舞台装置はないが、シテ（主役）が舞台をぐるっと一回りしただけで、京の都から隅田川^{*4}のほとりまで旅をしてきたことを表す。一つの動作に、多くの意味を込めて表現する。それが「象徴する力」である。

かつてハンブルク・バレエ団が来日して、ギリシャ神話の「ユリシーズ」を公演したことがあった。その舞台監督は当初、「ユリシーズ」の物語は時間が何百年にもわたり、場面もたくさん変わるから、舞台の上ではとても表現できないと思ったそうだ。しかし日本の「能」の表現方法を思い出し、「象徴」という手法を用いることで、壮大な物語を舞台上で表現することが出来たと語っていた。

その「象徴する力」とはある意味、古代性の表れともいえる。産業革命以降の近代化の歩みはひたすら現実や物質だけを尊重し、そのような象徴性をハイジヨ^オしてきた。日本は本当に珍しく、古代を持ち続けている国である。これだけ情報が氾濫^{はんらん}している現代で、日本の俳句が世界的にブームになっているというのも、多よりも少という「象徴する力」の価値を人類が求めているからではなからうか。

（中西 進『令しく平和に生きるために』による一部改訂）

（注）*1 忠臣蔵……江戸時代の実際の事件に基づく物語で、赤穂浪士（浅野内匠頭の家臣）が主君の仇討ちのために討ち入りを果たす話。

*2 マッカーサー……アメリカの軍人。太平洋戦争後に連合国軍最高司令官として日本に進駐し、日本の民主化や経済改革を進めた。

*3 発露……心の中にあるものや隠していたことがおもてに現れ出ること。

*4 隅田川……現在の東京都を流れる河川。

*5 産業革命……一八世紀後半から一九世紀初頭にかけて、イギリスを中心が始まった経済・社会の大変革

問一、傍線部アㄱオのカタカナは漢字に改め、漢字はその読みをひらがなで答えなさい。

問二、へ i ㄱ、へ ii ㄴ にあてはまる接続詞として最も適当なものを次のアㄱオの中から一つずつ選び、それぞれ記号で答えなさい。
ア なぜなら イ だから ウ さらに エ ところで オ ところが

問三、二重傍線部A「風潮」の意味として最も適当なものを次のアㄱエの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 今後の国家のあり方を決定づける指針
- イ 多数派に対抗するための少数派の意見
- ウ 時代の推移に伴って変わる世の中のありさま
- エ 人々に支持されている根拠が不確かなうわさ

問四、傍線部①「日本人がアメリカ人の顔をする事」とはどういうことか。これを分かりやすく言い換えた表現を本文中から抜き出さなさい。

問五、傍線部②「尊敬する力」を筆者はどのように定義しているか。本文中から二十五字以内で抜き出さなさい。

問六、

X

にあてはまる表現として最も適当なものを次のアㄱエの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 和を以て貴しとなす
- イ 和して同ぜず
- ウ 一心同体
- エ 同じ釜の飯を食う

問七、傍線部③「社会への成熟度の高さの表れ」とは何をさすか。最も適当なものを次のアㄱエの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 日本人が「わたし」を使い分けていること
- イ 自分を出すべきところでははっきり主張すること
- ウ 調和を重んじて自分を控えぬに出すこと
- エ 日本語の文章に主語のない表現が多いこと

問八、傍線部④『『象徴』という手法』とはどういう手法か。本文中の語句を使って答えなさい。